



京都民医連中央病院
夏のナーシング
セミナー

看護部長
松浦ときえ



京都民医連中央病院では8/20にナーシングセミナー（看護学生のための看護体験）を実施し、10校から奨学生を含めた21名の看護学生が参加しました。例年は個別の日程で受入れておりましたが、今回は日程を決め、学習企画、看護師との交流時間を設定したことで、たくさんの方の参加申込がありました。午前中は1時間ずつ2つの部署の見学・体験。午後は「最近話題の感染症と感染対策！もしあなた自身に、MERS、感染者がいたら〜」というテーマで感染管理認定看護師曾根孝子師長より講義を受け、その後、手袋、N95マスク、エプロン

の正しい装着方法の実際を体験しました。最後は現場で働く看護師12名との交流TIME。5つのグループに別れて、仕事や私生活の様子、看護師としてのやりがいなどについて交流しました。

部署体験では、「教

科書だけでは学べないことが知れてとてもよかった」「二人一人の患者さんと丁寧に接しておられる姿を見て、私もこのような看護師になりたいと思った」等の感想が出され、また学習企画に対しては、「TVのニュースだけでは知ることでできないウイルスの特性や感染予防などについて詳しく調べ、とても勉強になった」「手指衛生の大切さがわかるお話しだった」等の感想がありました。

看護師との交流や全体を通じて、「就職した後イメージが湧いた」「実際に働いておられる看護師さんとお話しできて、少し不安が減った」「看護の仕事は大変だけど、やりがいのある楽しい仕事」と感じた。働くのが楽しみになった」等の感想が出されました。当日は10校それぞれのユニフォームを着た学生さんが病院内をあちちに行ったりここに来たりと、大変新鮮な一日となりました。

その後、参加された学生のうち1名が来年の民医連への入職を希望され、2名が保健会の奨学生になりました。現場の実践を見せること、語ることで学生さんに伝わる「現場の力」をあらためて感じました。



友の会 活動家紹介

舞鶴健康友の会 副会長

森脇茂男さん



まいづる協立診療所創設時の「みんなの診療所をつくる会」の立ち上げからお世話になっている世話人さんです。

「舞鶴健康友の会」の副会長として、何時も活動の先頭に立って活躍されています。

舞鶴社会福祉協議会から補助金も頂きながら続けている「お楽しみ会」の責任者として、毎回「楽しく安心して喜んで参加していただける企画」と心を砕いて頂いています。

地域では、民生委員として、地域の高齢者から頼りにされる存在であり、一昨年から、友の会活動として、地域の独居高齢者や老々介護世帯の「寂寥者地域訪問活動」も始めています。

また、日常的には新鮮な野菜の販売や夏期・年末の物資販売など、事業活動の責任者として友の会を財政的に支える大きな役割も担っていただいています。

外見はちょっとこわそうで、口も悪いおじさんですが、心の中はよく気がついて、細やかな気配りができる、友の会になくてはならない世話人さんです。

（渡邊加代子記）